

## ◎ 2017年度若手医師奨励賞受賞



滋賀医科大学 呼吸器外科

**岡本 圭伍** (平成 21 年卒)

この度は、このような名誉ある賞を頂き誠にありがとうございます。私が今回の若手医師奨励賞を賜りましたことは、浅井先生、花岡先生をはじめとした大学の諸先生方、ならびに関連病院の先生方より日々ご指導頂きました結果であり、心より感謝申し上げます。

奨励賞でご評価頂いた論文は、“fimA II 型線毛を有する *Porphyromonas gingivalis* 肺化膿症の 1 切除例”です。

呼吸器外科では原発性肺がんを主に診療対象としており、多くの場合、手術前に確定診断が完了し、治療目的に手術を行います。しかしながら、まれに良性腫瘍や非腫瘍性病変が切除対象となることがあり、そのような病変に対しては、まずは診断を主とした手術を行い、術中所見をもって治療方針を決定していくこととなります。論文として投稿した症例も、手術前の時点で肺悪性腫瘍の可能性が高いと判断しておりましたが、術中所見が全くの想定外となり、手術中に困惑したことを覚えています。その後の追加検査でも診断病名のアウトラインがはっきりせず、病理部の先生や細菌検査部の技師の方々と討論を重ね、ようやく最終診断に至ることができました。これらの症例を経験することで、自分がまだまだ勉強不足であり、他分野との協力体勢の重要性を痛感し、その後の診療の糧にすることができました。

現代医療において、画像機器をはじめとした、様々な精度の高い検査手法が構築されていますが、それでもなお、古典的な手術所見は、眼前の病変を真の診断に近づけるための、最も重要なデータのの一つです。そして、その情報に真っ先に直接触れることができるのが外科医としての面白さであり、研鑽を積んでいく理由になるのだと思います。

最後にはなりましたが、このような研究発表を行うことができることは、日々ご指導頂く先生方と共に働く同僚の先生方あってのことだと改めて感謝致します。書中をもって御礼申し上げます。